

# 小野市の蝶を語る

山 本 広 一

従前加東郡南部五ヶ町村といわれた小野、市場、来住、河合、大部の地に下東条村と福田村の一部とを併せて新しく発足した小野市は東播地方のほぼ中央にある。市の西域をたてにつらぬく加古川は東条川(支流)の水を集めて南に流れ、その西側につづく青野原の台地と東部の山地(標高百三四十米前後)とを除けばすべてが古く開けた水田であり、畑地である。植物相も至極単純で、マツを主とする針葉樹林が多く、それらと混つて所々にカシ、コナラ、クスギなどの雑木林が見られる。従つて昆虫についても取りたてていうほどのものはなく、蝶もほとんどが各地に共通な普通種ばかりである。

筆者がこの地方の昆虫に興味をいだいて、蝶を集め初めてからすでに30余年になる。その間暇をもとめて各所を歩き採集を行つてきた。

もつとも昆虫採集なんていうことはその頃の田舎にあつて余程めづらしかつたにちがいない。人達から不思議そうに「何にするのか」とか「何の業になるのか」と聞かれたり、ときには「いくらくらいで売れますか」などずいぶんがたつた質問も受けた。採集器具も現在のように普及されておらず、入手することも容易ではなかつたから必要なものはすべて手製によつて間に合わせた。それにつけても忘れられない苦々しい失敗がある。ある日小学校の理科室を整理していると採集網の金具とおぼしい品物が出てきた。少しは変だと気付いたが、とにかくそれを雛型に真鍮製の金具を職人に作らせた。しかし出来上つた品物には無磁穴があつたり、簡単に網枠が竿に固定されそうにも見えない。いろいろ苦心のすえ、やつと五尺柄——これにケヤキで指物職の手をわずらわして作つた——に取りつけたが、網は折りたたむことも、取りはずすことも出来ない。網をひろげたまま金剛杖のようなかつこうで、どこへでも持ちまわつた。後になつて金具の正体は判つたが、そのときには余りの骨稽さに苦笑せざるおれなかつた。というのは金具は捕虫網用にはちがひなかつたが、それはすでに誰かが枠の押え金を失つて使用できなくなり、捨てていた片輪者だつたからである。

種名の同定についてもずい分と苦勞した。もともと筆者の関心は野鳥の生態にあつたから、当時の安給料のほとんどがその方面の書籍の購入に費されており、いよいよ昆虫書に手を着けようとしたときは関東大震

災に多くの文献が失われた後となり、なかなか蒐めることが出来ない。そのため宮嶋博士の日本蝶類図説や松村博士の日本千虫図解などは思いもよらず、岡崎常次郎氏の通常蝶類図説や山川黙氏の蝶図譜(初版)などが主な手引役をつとめてくれていた。

最初の頃の採集はやはり身近な来住や河合、市場などの加古川沿いの場所が中心となり、蝶も個体、種類ともに現在よりは多かつたと記憶している。堤のヤナギヤムクの木にはゴマダラチヨウヤコムラサキがいたし、藪蔭にはゴイシジミの姿も珍しくはなかつた。ヒオドンチヨウヤウラゴマダラジミもいたし、庭のコスモスにはヒメアカタテハが訪れた。それが減少したことはやはり環境の変化に因るものと考え。その第一は数次にわたる加古川の護岸工事である。もちろんこれだけが小野市全域の蝶に変化を及ぼしたとはいえないし、思つてもおらない。そこがいつも筆者の行きつた場所であり、とくに各種の蝶が集まりやすい雑木林や荒地が多かつたというまでであろうが、筆者にはやはりそうした感じがする。つぎは広範囲にわたつて行われた大戦中の有閑地の開拓である。今まで捨てられてあつた草地や藪が芋畑となり、山膚が剝がれて山畑と変つた。山林の一部は焼野となり、さらにマツケムシによつて丸裸となつてしまつた。また最近各所に使用されるホリドールの撒布も田畑近くに生活する種類にたいしては大きな恐怖となつていることと思う。

とにかく蝶は少なくなつた。コスモスの花園にヒメアカタテハを追つた楽しさも、コムラサキをもとめて攀じたヤナギにムカデをおさえた驚きも、やがては昔の語り草となることであろう。

1926年の頃だつたと思う。加東郡河合小学校で学校経営の総合発表会が催され、郡内の先生方が一堂に会したことがある。その時筆者はすすめられるままに当時採集していた郡内の蝶類標本を展示し、「蝶のしおり」と題するパンフレットを出して、加東郡蝶類目録を公表した。それにはたしか52~3種の蝶を説明していたと記憶するが、この他にも種名の同定し得ない2~3の種類があつたから、当時すでに55~6種が採集されていたはずである。爾来幾星霜、パンフレットも散逸し、さらに幾種類かを追加せねばならなくなつたので、あらためて新目録を作りたいと願つていた。折しもキマダラルリツバメヤクワバメシジミの発見が

あり、これを機会に既知の全種類を掲げて、すぎこし昔の思いをつづらうと思う。

## I PAPILIONIDAE アゲハチヨウ科

### 1. *Luehdorfia japonica* LEECH ギフチヨウ

岐阜チヨウの名に迷わされてかつては岐阜にまで出かけた筆者が意外にもこれを滝野町五峯山に見出したのは1928年のことである(兵庫生物 Vol. 1, No. 5 参照)。その後小野小学校の校庭からも見つけられた(1934年)が、ここは人里近い町外れ、南と西に松と雑木をめぐらせた一柳藩の城址とはいえ、当時このような所で得ようとは想像もしていなかつた。ついで来住地域の鍛溪神社付近にも相当発生することを確かめ(1945年)、市場小学校庭の菜畑でも採集した(1948年)。小田地方の山でも目撃したし(1950年)、大部地区の鯉坂付近にそれらしい姿を見かけたとの話もある。市の南東につづく三木市(三木町)には故山田舜亮君が1934年に採集した記録があり、筆者も市の南西にあたる志方町城山の地や、加東郡下の各地に確認しているのでこの地方としては決して珍らしいものではない。しかし各地とも個体数は少く、しかも年毎に減

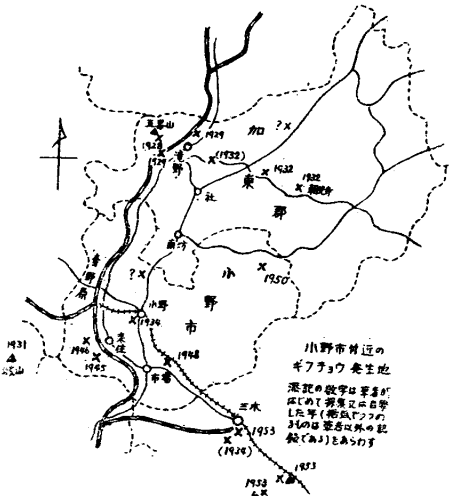


fig. 1.

少の傾向にある。ことに来住地区の発生地が遊山者の不注意から失火し、マツクイムシの被害によつて著しく山容の変つたことは惜しい思いがする。

蝶の消長はその食草となるキンキカンアオイの盛衰と関係し、終令期の幼虫がもつ旺盛な食慾を充たせるにはよほどの食糧源が必要である。そのため蝶の発生がおのずと制約されるにちがいない。

蝶の出現は春早く、中には4月30日に採集した例(まず完全な雌、滝野町産)もあるが、4月12~3日の頃が最盛期となつている。

### 2. *Byasa alcinous* KLUG ジャコウアゲハ

グミの花をたずね、風あたりの強くない藪かげや麦田の畝間をぬつたとぶ春型や、朝露の乾ききらない夏の川堤や埃にまみれた路傍の茂みをくぐる夏型、それは他のアゲハとちがつた緩慢な飛翔ぶりである。翅の繊弱なためであろうが、それにしてもせまくるしい灌木の間を漫步するのが好きらしい。尾状突起の毀傷が多いのはそのためであろう。以前は川原の至る所にウルシやカラワグミのしげみがあり、いつも蝶はその辺に見られたので、筆者は幼い頃ウルシでも食草とするのかと疑つたほどである。

蝶は年により、また春夏の季節によつて発生の個体数に著しい相異がある。その原因については知らないが、幼虫の食草であるウマノスズクサが田舎路や川堤に多い関係から放飼の牛の飼料となり、他の雑草とともにかいばにされる場合が多く、ときには卵や幼虫が食草とともに消え去ることも少くはなからう。また最近急にはびこつたヨウシユマゴボウのように好んで蝶の集る花があり、そうした花のあるなしが観察者にとつて蝶の多少を決定する上に大きな要素となる場合もあると思う。

### 3. *Graphium sarpedon nipponum* FRUHSTORFER

アオシアゲハ

クス樹の付近をとびかう姿は他のアゲハとちがつた雅かな風情がある。以前にはよくネギ坊主やクロバの園に来るのを追つかけて畑荒しのおとがめをも頂戴した。ウツギの花に来るものやヘクソカズラやニンドウの花につくものも多く、崖際の湿りに集るものも少くない。決して珍らしい仲間ではないが、こきざみに翅をふるわせて静止することを知らないこの用心者を捕えることはなかなか難しい。クスの若葉に産卵し、そこで成長するので、大風のあとなどには幼虫が小枝とともに落されていることがある。筆者は拾つて飼育したこともあり、折角育てた幼虫を雞に啄まれて失望したこともある。

### 4. *Papilio xuthus* LINNE アゲハチヨウ

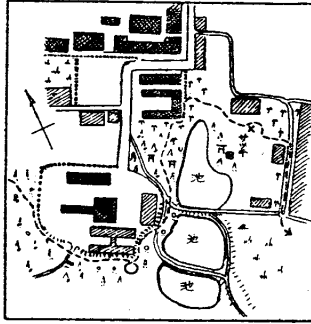
### 5. *Papilio machaon hippocrates* FELDER et

FELDER キアゲハ

本種はアゲハにくらべてはるかに少い。その春型を採るために筆者は見通しのきく山頂によく登つたものである。そこには大い一つや二つの雄がいて、新たに現われる仲間に対して挑戦する。独占性というのか(こうした習性は他の種類にも見られるものがある。)その争を利用して漁夫の利を占めるのも面白い。また溝際のセリやニンジン畑にもやつてくる。しかしこの辺で最も多く見かけるのは6月頃の川の堤防である。やはりハナウド、ミツバ、ヤブシラミなどのカラカサ

バナ科植物が多いためであろう。

6. *Papilio protenor demetrius* CRAMER クロアゲハ  
アゲハチヨウ科中アゲハについて普通な種類で、後の2種と同様明らかな蝶道をつくっている。蝶道は藪のはざまや溪流沿いの谷間などに見られ、蝶はかなりの正確さをもって往来する。幼虫はヘンルーダ科の植物を食べる。かつて筆者が庭に植えていたネーブルは毎年いくつもの幼虫を育てたし、真紅なサツキはたえず成虫に蜜を提供してその集会所となっていた。この辺のカラタチに見かける幼虫はほとんどがアゲハである。



昭和11年前後の小野小学校附近における蝶道  
(史料棟の建物は現在なし、池の一部は埋め立てて神戸電鉄の通じている、附近の樹木は多く除去された)

fig. 2.

つて本種であることは珍らしい。ところが以前県立小野中学校(現在の小野高校)の東側にカラタチの長い垣根があり、いくつもの成虫の姿が見られた(春型)。そこで羽化したのか、それとも蜜をもとめていたのか、それとも産卵のためだつたのか。雌もいたし、雄もいた。当時筆者にとって絶好のアゲハ採集場だつたのである。その垣根は校舎の改築によつてすっかり掘りとられ、今は面影さえもない。ちなみに第2図は筆者が利用した小野小学校付近の蝶道追憶の図である。

7. *Papilio bianor dehaanii* FELDER et FELDER

カラスアゲハ

本種はまれにみるなかまである。かつて捕虫網の緑色がアゲハの採集効果の上に関係のあるらしい話をよんで、早速験してみたことがある。しかし、それらしい効めの現われないままに頼りない言葉と 思っていた。ところが先年雪彦山に登つてカラスアゲハの雄が青味の強い緑色の服をまとつた婦人(立ち止つて人と話中だつた)の裾にまぶれつき、あたかも何かにつかれたかのような状態にあるのを見て興味深く観察した。蝶にもやはり魅惑される色があり、少くともカラスアゲハに関する限り、青緑色の網が有効なのである。

〔附 記〕

1. *Papilio macilentus* JANSON オナガアゲハ

たしか市場小学校の標本中にあつたと思うが、筆者はいまだ市内において採集していない。北東部の山地を探すとあるいは見つかるのかもしれないが、とにかく非常に珍しいものにちがいない。

2. *Papilio helenus nicconicolens* BUTLER

モンキアゲハ

大部地区にこの蝶を見つけたという話もあるがもちろん確実ではない。しかしる可能性はある。この付近での筆者の目撃記録は印南郡城山が最初である。その後加古川市内でも数回目撃され、採集もされている。

## I PIERIDAE シロチヨウ科

1. *Colias erate poliographus* MOTSCHULSKY

モンキチヨウ

2. *Eurema hecabe mandarina* DE L'ORZA キチヨウ

3. *Eurema laeta bethesba* JANSON

ツマグロキチヨウ

4. *Pieris rapae crucivora* BOISDUVAL

モンシロチヨウ

どこにでも見られる普通の種であるが、その斑紋変化は興味あるものである。翅表の黒紋はもちろん翅頂部の黒斑までほとんど失つた春型があれば、反たいに黒斑が発達して外縁の半ば以上に達した夏型もある。そしてときには前翅の二つの黒紋がさらにその間に現われた黒斑によつて連絡しそつたものもある。

5. *Pieris melete* MÉNÉTRIÉS スジグロチヨウ

珍らしい種類で、筆者が南部の来住地区での経験は採集1回、目撃1回の2度にすぎない。

6. *Anthocaris scolymus* BUTLER ツマキチヨウ

最近の農業によつて大きく被害をうける仲間の一つであろう。山がかつた田圃付近に多く、下東条地区の万勝寺や小田地方に少くない。かつてある年の夕方河合地区のソラマメ畑にモンシロチヨウを探しに入つて、この蝶を見つけ、つぎつぎと追ひだして10匹余りも得たことがある。ソラマメがこの蝶のねぐらとなつていたのである。

## II DANAIIDAE マダラチヨウ科

1. *Caduga tytia nipponica* MOORE アサギマダラ

山地に多いこの蝶を市内に見たのは僅かに2回である。第1回は1926年の秋だつたと思う。河合小学校の校庭でテニスをしていると、どこからともなく1疋の蝶が現われた。早速ラケットをもつて追いかけて、失敗はしたが一撃与えただけの効めはあつて、蝶はまい昇るかに見えたが、3~40mばかりを飛んでついに稲田の中に消えてしまった。このように人家近くで目撃した筆者の例は加古川小学校の宿直室に迷いこんできたのと前後2回にしかすぎない。

#### IV LIBYTHEIDAE テングチヨウ科

1. *Libythea celtis celtoides* FRUHSTORFER

テングチヨウ

#### V SATYRIDAE ジャノメチヨウ科

1. *Ypthima argus* BUTLER ヒメウラナミジャノメ
2. *Ypthima motschulskyi* BREMER et GREY

ウラナミジャノメ

3. *Minois dryas bipunctatus* MOTSCHULSKY

ジャノメチヨウ

4. *Mycalesis gotama fulginia* FRUHSTORFER

ヒメジャノメ

5. *Mycalesis francisca perdiccas* HEWITSON

コジャノメ

6. *Coenonympha oedippus annuliter* BUTLER

ヒメヒカゲ

ヒカゲ類中最も鮮やかな色彩をもつたこの蝶がしめす裏面の斑紋の変異はかなり筆者の注意をひきつけた。そのためずい分と沢山な個体が命を奪われている。いづれ詳細は発表するはずだが、中には写真(第3図)に見るような変り物がある。それは裏面の眼状紋に黒



fig. 3.

*Coenonympha oedippus annulifer* Butler

ヒメヒカゲ

上は異常型1931年6月23日採集

下は正常型をしめす

環がなく、すべてが地色と同じ金銅色となつた雄である。このあたりの山地ならどこにでもいる。草原がよいが、サルトリイバラやヒムロなどの下草が生えた木立のところにも見られる。筆者が初めて得たのは加古川沿いの草原で、そこには雑木があり、ススキやハギが雑然と生えていた。その間をあちこちと踏み廻ると今まで潜んでいた蝶がとび出してくる。またこの辺には灌木と雑草だけの丘地があり、朝露のようやく落ちた頃合に上ればあちらこちらの叢かげに活動をはじめ

た蝶の姿が見られる。それを追つて採るのだが、とび立つても決して遠くへは移動しないので見つけさえすればまず自分のものである。追いかける足もとにも新しい個体がとび立つ始末に、いつでも2本の綱は用意した。山火事やマツクイムシに木立を失つた山麓に雑草が生え、草が耕されて麦畑になる。筆者が大切にしていた川沿いの荒野はすでに川底に取り込まれ、土地のようすは次々と変つていつたが綱は昔と変わらない。

7. *Kirrodesa sicelis* HEWITSON ヒカゲチヨウ

8. *Neope goschkevitschii* MÉNÉTRIÉS

キマダラヒカゲ

#### VI NYMPHALIDAE タテハチヨウ科

1. *Hestina japonica* FELDER et FELDER

ゴマダラチヨウ

以前は河岸や有閑地にニレやムクが多く、蝶はよくその辺りを舞っていた。ところが河川工事によつてそれらが取り除かれてからは蝶の姿も見られない。1923年のこと、ヤナギの樹幹にカマキリが捕えているのがほしくなり、追い払つて食べ残しを持つて帰つたのがこの蝶の最初のものでつた。

2. *Limenitis camilla japonica* MÉNÉTRIÉS

イチモンジチヨウ

本種も川原のブツシユや藪蔭にコムシジと一しよによく見かけた。市内で捕れた標本が手許に豊富でないためにそれらの中からアサマイモンジを扱ひ出すことは出来ないが、アサマもかならずいるにちがいない。本年隣同志の加古川市上荘町に採集されたことはこの事実を示唆するものと思う。

3. *Naptis aceris intermedia* W. B. PRYER

コムシジ

4. *Vanessa indica* HERBST アカタテハ

5. *Vanessa cardui* LINNE ヒメアカタテハ

河合小学校の校庭や粟田橋付近の加古川堤でよく見受けたものであるが、最近では見当らない。

6. *Polygonia c-aureum* LINNE キタテハ

7. *Nymphalis xanthomelas japonica* STICHEL

ヒオドシチヨウ

8. *Kaniska canace no-japonicum* SIEBOLD

ルリタテハ

9. *Apatura ilia substituta* BUTLER コムラサキ

かつて加古川が河合地区の粟生部落を流れる辺にはヤナギの並木があり、筆者の宅の近くにもヤナギの老樹があつて、蝶はいつでもその辺をとんでいた。翅を開閉しながら樹幹を上下し、葉末に翅を展げて光を浴びている姿を何度見たかしのれない。

10. *Fabriciana adippe pallescens* BUTLER

ウラギンヒヨウモン

11. *Fabriciana nerippe* FELDER et FELDER

オオウラギンヒヨウモン

12. *Fabriciana laodice japonica* MÉNÉTRIÉS

ウラギンスジヒヨウモン

以上三種のヒヨウモンはどこにも得られる普通種だが、採集に寝込みをおそつて川原の草原や荒地を走り廻るのも面白い。もつとも夕方日の沈まない頃のことだから本当の寝込みとはいえないだろうが、とにかく一日の活動を終えて草葉の蔭にとまっている蝶である。追いたてられても屋間の活潑さに似もつかず、長くは飛ばないで近くの叢にとび下りる。たとえ飛んだとしても見通しのきく所だから大した問題ではない。また蝶はウツボグサやアザミ、トラノオなどの花にくるので、そうした花のある場所をたずね歩いたこともある。

13. *Fabriciana rusrana lysippe* JANSON

オオウラギンスジヒヨウモン

本種は今まで当市内に居ないものと思つていたが、筆者の標本中から1匹の雄が出てきた、やはり稀にはいるらしい。

14. *Fabriciana paphia geisha* HEMMING

ミドリヒヨウモン

本種も極めて珍らしい種類でただ一度来住地区の筋峠で捕えたことがある。

15. *Damora sagana liane* FRUHSTORFER

メスグロヒヨウモン

16. *Argynnis anadyomene midas* BUTLER

クモガタヒヨウモン

17. *Argyreus hyperbius* LINNE ツマグロヒヨウモン

小野小学校の学園にさくコスモスに来ていた雌を見たことがあり、すこし離れた垂井町に写生に出ていた児童が捕えて来た雄を見たこともある。また市場小学校には戦前同地区内で採集されたい標本があつた。秋の頃ときたま現われるものと考える。

(附 記)

1. *Dichorragia nesimachus nesiotis*

FRUHSTORFER スミナガシ

かつて小野小学校の児童が採集していた本種を見たことがある。少し古びれた立派な展翼標本なので(その児童はとても熱心で器用な児であつた)、その出所についてはある種の疑問を抱いていた。その後来住地区の路上でも本種らしいものを目撃したが、ルリタテハとの誤認もあるので一応はその存在を疑問視している。ところが本年とうとう加古川市の白沢部落で加古川東高校生の数岡省一郎君が採集した。そこは小野市との境界線より200mと距たぬところとて、今後小野

市にも確実な標本が採集されるものと大きな期待を寄せている。

2) *Neptis pryeri* BUTLER ホシミスジ

本種の分布は極めて局地的で、筆者は毎年これを伊南郡城山に採集している。小野市よりの直線距離およそ1km、付近の特殊種として報じておきたい。なお本年登頂観察の結果は樹相の変つたためか往時の約二分の一程度の発生であつた。

3) *Limenitis glorifica* FRUHSTORFER

アサマイモモンシ

既に述べた通り、将来当市内にも採集されることと思う。

Ⅵ LYCAENIDAE シジミチョウ科

1. *Japonica lutea* HEWITSON アカシジミ

2. *Japonica saepestriata* HEWITSON

ウラナミアカシジミ

3. *Antiguis attilia* BREMER ミヅイロオナガシジミ

4. *Favonius orientalis* MURRAY オオミドリシジミ

クヌギの雑木林に恵まれないこの地方では本種も少く、最近はとくに減少したのではないかと思うふしもある。

5. *Neozephyrus taxila japonica* MURRAY

ミドリシジミ

本種には群生する性質があり、その発生箇所を見つけるといくつでも採集できる。夕方ハンノキ近くに陣どると、さかんに活躍する。そして2匹の雄が、ときには3、4匹もがたがいにからみあつて垂直に舞うので、一挙に拵つて気をよくしたことも稀でない。

6. *Artopoëtes pryeri* MURRAY ウラゴマダラシジミ

ルリシジミに似て大きく美しいこの蝶を自宅近くのクヌギの葉末に得たときはとてもうれしく思つた。1931年6月7日のことである。大形のルリシジミ、これこそオオルシジミと呼ばれるものに違はないと大よこびで家に帰つて図鑑に照合して失望したことや、つぎつぎにあらわれて灌木(種名失念)のあたりをとともすばやく乱舞した裏面の銀白色のきらめきが今もお眼に見える思いがする。

7. *Ahlbergia ferrea* BUTLER コツバメ

8. *Rapala arata* BUTLER トラフシジミ

一度だけ東条地区の万勝寺に得たきりで当市としては珍しい仲間である。

9. *Arhopala japonica* MURRAY ムラサキシジミ

10. *Spindasis takanonis* MATSUMURA

キマダラルリツバメ

1902年竜野市で得られたこの蝶はその後高見筆太郎氏が久崎に採集していたことが井口宗平氏の記録に見られる。しかし詳細はわからない。筆者もしばしばか

の地について調査をし、また京都市の嵯峨野にもでかけたが、いまだ自ら採集したことがない。ところが、最近その珍種が小野市内、しかも自らの持ち山で発見したのであるから、世の中はまさに「灯合は下暗し」の感がする。(第4、5図)

1955年6月19日、曇りがちな空模様で久崎行き予定を中止し、近くの山を巡ることにした。オオミドリシジミを探しながら山路を登つていくと、とあるクヌギの葉上にとまつた蝶がある。トラフシジミと思つて掬うと意外にも本種であつた。他にもあたりの小松の間をとんでいるものがある。飛翔はとても敏捷であるが時々松の葉やクヌギにとまるのでついに5匹を得た。翌日写真に収めるため再び訪れると、前日と同じクヌギの同じ葉末に一匹が休んでいる。(第6図)俗に「柳の下のドジョウ」とかいうがこの場合にはそれがうまくあてはまらないらしい。早速岡田幸雄君にこの旨を連絡し、同君が前年認めたという青野が原の一

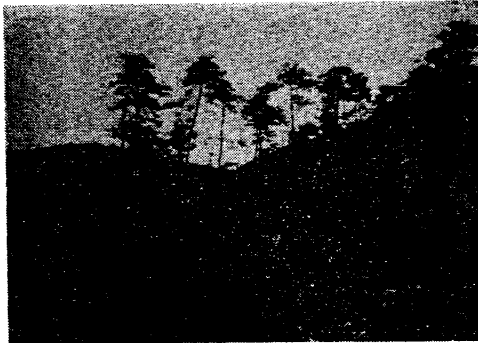


fig. 4.

小野市におけるキマダラルリツバメの発生地



fig. 5.

*Spindasis takanonis* Mats.

キマダラルリツバメ

上裏面、下表面、共に小野市産  
1955年6月19日採集



fig. 6.

クヌギの葉上にとまつたキマダラルリツバメ

ルリツバメ

小野市にて1955年6月20日撮影

角を精査するよう依頼しておいた。ところが数日たつて同君も採集に成功し、その標本を送るとの快報を受け、ここに市内に2ヶ所も発生地の確認されたことを非常にうれしく思つた。その後も青野には採集されており、既に10匹以上が得られているはずである。今後はさらにその分布が拡大するものと思う。

11. *Taraka hamada* DRUCE ゴイシジミ

すでに記したように戦前には川岸に竹藪が多く、その間の小径をたどるとよくこの蝶が見られたものである。

12. *Lycaena phlaeus daimio* SEITZ ベニシジミ

13. *Niphanda fusca shijma* FRUHSTORFER

クロシジミ

群生する性質のこの蝶はコナラの茂みに多く、余り移動せぬので採集は容易である。

14. *Curetis acuta paracuta* DE NICEVILLE

ウラギンシジミ

フジヤクズの茂るあたりに見かけるが、その数は多くない。

15. *Zizeeria maha argia* MÉNÉTRIÉ'S ヤマトシジミ

いたる所普通に見られ、カタバミの附近に少くない。

16. *Zizina otis alope* DE L'ORZA シルビヤシジミ

シルビヤシジミの話題がようやく誌上を賑わし初めたころ、朝鮮に移られた新貝八州男氏からこの蝶が来住地区にもいるから十分調査するようにとの連絡があつた。それは氏がまだ鹿児島市内に教鞭をとつていられた1933~4年の頃筆者の送つた標本中に本種が混つていたというのである。そこで早速筆者も自分の標本を精査したところやはりヤマトシジミの中から1931年7月5日来住のラベルをもつた一匹があらわれた。しかし、採集して余程の年月もくれるし、大して

注意を払った蝶でもないのそれが来住地区のどの辺であつたか全然記憶がない。そのうちにわかるだろうとそのままにしていたところ1954年6月15日市場地区の加古川堤より、また1947年にはずつと上手にあたる小野葉多地区の堤坊（現在神有電鉄の鉄橋のある辺）より少々の個体が見つかった。さて、本年にはほとんど川口に近い加古川市友沢に中谷貴寿君が採集しており、結局、局地的ではあるがこの川の流域には広く分布することが想像される。しかしミヤコグサが幼虫の食草である以上川岸に限つたことはあるまいと留意していたら、1954年鴨池近い稲田の畦道から、また加古川線の軌道わきの叢からも採集することが出来た。

17. *Celastrina argiolus ladonides* DE L'ORZA

ルリシジミ

18. *Everes argiades seitzi* WNUKOWSKY

ツバメシジミ

19. *Tongeia fischeri* EVERSMANN クロツバメシジミ

本種の採集は筆者にとつて最近のトクダネの一つである。1919年長野県上田で発見されて以来長野県をはじめあちこちで採集されてはいるが長く近畿からは知

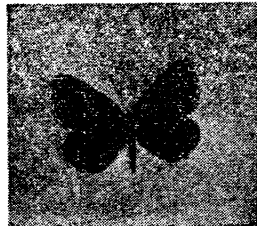


fig. 7.

*Tongeia fischeri* Evers.

クロツバメシジミ

小野市産1957年5月3日採集

られずに終つた。もつとも岡山県下に多産地がある由であるからいつかは見つかるだろうと心がけていると、1955年松井俊公氏によつて宍粟郡山崎町（氏の私信によれば町内及最上山麓）から採集された。それに示唆されて筆者の脳裡に浮んだのは、古く祖父が採集して来ていたツメレンゲ（イワレンゲといつていた）である。そして本年4月29日日本市内に発生することを確認し、次で5月3日採集にも成功した。その後も数回出かけたが下草がしだいに生い茂り、岩山に近づくことさえ至難となつてきたので詳細な調査は行つていない。（第7図）

本種の発生は毎年3回といわれているが、筆者（4~5月）と松井氏の例（9月）よりして本県でもやはり3世代を繰返すことであろう。

20. *Lampides boeticus* LINNE ウラナシジミ

1931年をはじめ手にし、その優しく美しい姿に感心したことがある。裏面の細かい波状模様がよほど気に入つたものらしい。成虫のほしさにわざわざこの蝶のためにカキマメを栽培したことがある。

Ⅷ HESPERIDAE セセリチヨウ科

1. *Erynnis montanus* BREMER ミヤマセセリ

2. *Isoteinon lamprospilus* FELDER et FELDER

ホソバセセリ

3. *Potant flavum* MURRAY キマダラセセリ

4. *Thoressa varia* MURRAY コチャバネセセリ

5. *Polytremis pellucida* MURRAY

オオチャバネセセリ

6. *Polopides mathias* EVANS チャバネセセリ

7. *Parnara guttata* BREMER et GREY

イチモンジセセリ

以上

—1957. 7. 25記—

（268ページより）

板宿、谷上、西は小野市附近迄、垂水区太山寺、須磨寺、丹生山、苦楽園、新甲陽、宝塚、生瀬、名塩等。

E. *amaliae* (Kcbelt) クチベニマイマイ

本州中部以西から近畿一帯をへて中国地方東部迄に分布している。押部谷、谷上、有馬、宝塚、生瀬、再度山、多聞寺。

E. *congenita* (Smith) ハリママイマイ

播磨から海岸ぞいに分布しその東限は西宮市霞町。

六甲口、太山寺、布引滝、再度山、山田町谷上等に棲息している。

Superfamily Streptaxacea ネジレガイ超科

Family Streptaxidae ネジレガイ科

Genus *Gulella pfeiffer* 1856 タワラガイ属

*Gulella* (*Sinoennea*) *iwakawa* (Pilsbry) タワラガイ  
太山寺、神戸市平野、小部、丹生山、谷上、阪急六甲八幡神社、生瀬。